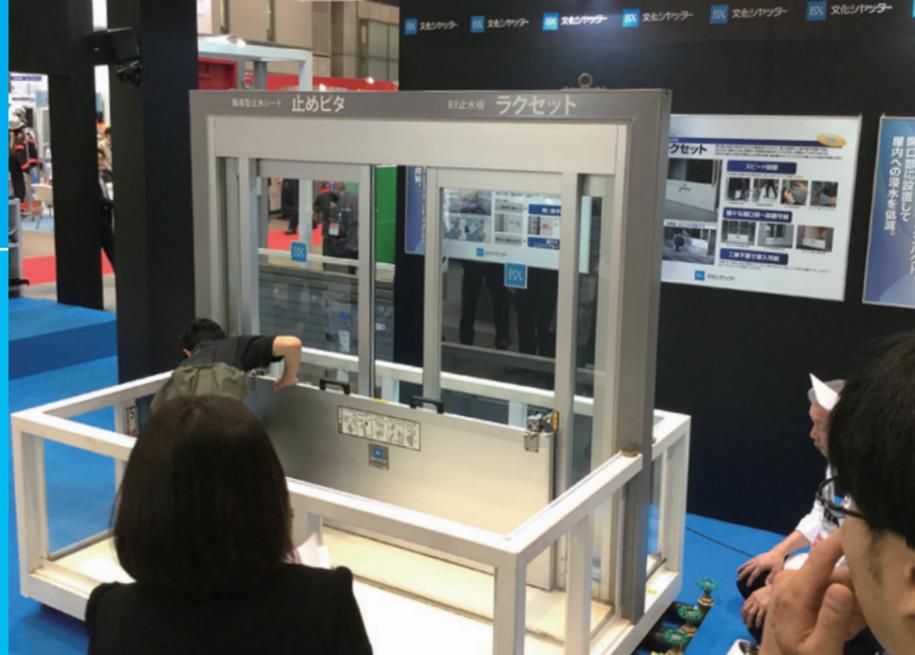


成長と共に

お客様の生活全般を把握することで本当に必要とされる製品やサービスを提供する「ライフ・イン」と、末永く「安心」「安全」にご使用いただくことで、お客様との信頼関係を築いていく「ライフロング・パートナーシップ」。

事業の根幹に息づいてきたこの二つのコンセプトは今後も継承すべき当社グループ不変のDNAとなりました。BXグループは、お客様に「安心」「安全」を提供できる「快適環境のソリューショングループ」として今後も進化を続けていきます。



「危機管理産業展2016」止水製品の実演ブース

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○目標達成 △要改善)	2017年度目標
「ライフ・イン」の発想によるエコ・防災事業の強化	●「営業が商品を創る」プロジェクト ●地域との共生～文京区長との対談～	グループ総合力を駆使した基幹事業の基盤強化
ストック市場に対するメンテナンス事業の強化	●設計・工務革新プロジェクト ●防火設備の法定点検推進	注力事業の成長を目的とした「エコ・防災」関連事業の推進
グループシナジーの最大化とグループコンプライアンスの向上	●BXカネシン・BX TOSHOをグループ会社化 ●コンプライアンスの徹底	グループコンプライアンスの推進
東南アジアを内需と捉えたパートナー戦略での海外事業強化	●パートナー戦略体制の構築 ●Eurowindow社との協業体制によるローカル市場拡大	社会課題解決のための商品・サービスの拡充

お客様の満足を追求

「営業が商品を創る」プロジェクト

BXグループは、お客様に新しいライフスタイルを提供する高付加価値の創造をめざしています。お客様に感動を与える“ことづくり”を実現するためには、お客様に寄り添い、感性を持って「見る」ことで、お客様の潜在化のご要望を顕在化する総合提案力を身につける必要があります。営業担当者がお客様の声を具現化し、新事業、新商品の開発へとつなげる「営業が商品を創る」プロジェクトは、2011年の開始以降、お客様の情報を共有することで毎年テーマに沿った提案をし、豊かな発想による新たな提案には表彰制度を設けています。これまでに数々の提案が商品化され、販売を開始しています。



車載用自動開閉リモコン「セレクルーズ」

お客様相談室の取り組み

BXグループは、お客様の要求品質を満足させるために企画、開発、営業、設計、購買、製造、施工、メンテナンス、各部門の仕事の品質を向上させ、グループ全体としての品質保証体制を構築し、お客様より信頼される品質をめざしています。お客様相談室は、お客様から電話やメール等でいただいた要求品質を正しく掴み、適切、迅速そして誠実に対応することを心掛けています。

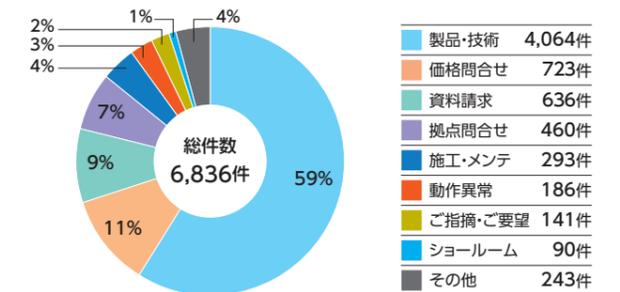
お客様からいただいた貴重な情報は、随時関連部門に発信し、新商品の開発や商品の改良・改善、ホームページやカタログのリニューアルに活かし、お客様満足の向上に努めています。

ています。また、社内のポータルサイト上に「お客様相談室情報館」を立ち上げ、全従業員がいつでもお客様の声を閲覧、検索することができます。

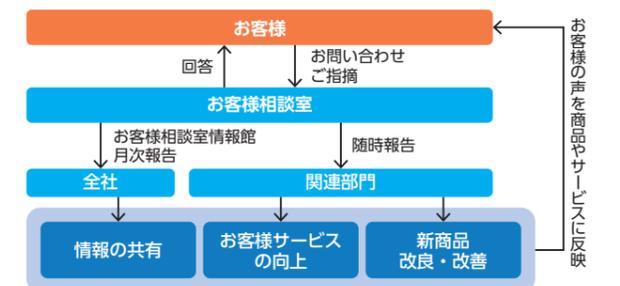
日々の活動として、電話受付終了後には夕礼を行い、一日の問い合わせ対応を報告し合っています。お互いが気づかなかったことを確認し、応対力の向上に努めています。

今後もお客様より信頼される品質を追求し、邁進していきます。

2016年度のお問い合わせ件数とその内訳



お客様対応の流れ



TOPICS 主な出展展示会

展示会	出展製品
防災防災総合展 in KANSAI 2016	BCP対策製品
危機管理産業展2016	防災関連製品
SAFETEC2016 第2回 西日本防災・防犯危機管理展	防災関連製品
VIETBUILD HCM 2016 (ベトナム) (Eurowindow社と共同出展)	住宅用ガレージ・窓シャッター
2016高雄国際建材大展 (台湾) (GLADOORと共同出展)	住宅用ガレージ
CAMBUILD 2016 (カンボジア) (三井物産メタルズと共同出展)	住宅用建材、防災関連製品
MYANBUILD 2016 (ミャンマー) (三井物産メタルズと共同出展)	住宅用建材、高速シートシャッター、重量シャッター
2016台北国際建材大展 (台湾) (GLADOORと共同出展)	住宅用ガレージ
VIETBUILD HANOI 2017 (ベトナム) (Eurowindow社と共同出展)	住宅用ガレージ、住宅用建材

危機管理産業展2016

文化シャッターでは、行政、企業に対し、防災・防犯対策等の必要性を提案することを目的に、危機管理に関わる全ての分野を網羅したビジネストレイドショー「危機管理産業展2016」に継続して出展しています。恒例となった止水製品の実演では、実際に製品を取り付けて水槽に水を張ることで、その簡易性や有効性を目で見て確認していただく貴重な機会となりました。見学者からはご質問やご要望が多数あがり、改めて止水製品への期待の高さを感じました。



VOICE

1日5回実施した止水製品の実演には毎回ブースから溢れるほどの見学者が訪れました。防災、とりわけ止水製品への関心の高さを感ずると同時に、来場者の職種も多様化しており、今後ますますお客様のさまざまなシチュエーションに応じた製品を総合的にご提案する必要があると感じました。このような展示会への出展は、直接お客様のお声を聞くことのできるとても貴重な機会です。



文化シャッター 営業推進部 井出 愛実



「守りたい、みんなの安心・安全を」をテーマとした日刊工業新聞社主催の「SAFETEC2016 第2回西日本防災・防犯危機管理展」が北九州市西日本総合展示場で開催され、文化シャッターは昨年に続き「安心」「安全」に関連した防災ソリューションを展示しました。

VOICE

「平成28年熊本地震」による被災地に近いエリアでの開催とあって訪れる人の防災意識が非常に高く、特に止水製品の実演は大変好評でした。講演のために会場に訪れていた熊本県知事がブースに立ち寄り、当社が寄贈した「避難所用間仕切り」が実際に避難所でのように使用されたのかなど、発災当時の状況をお話しくださる場面もありました。



文化シャッター 九州支店 営業開発部 富原 千佳

グループの成長・発展

地域との共生～文京区長との対談～

BXグループでは「地域との共生が企業成長の原点である」という考えのもと、あらゆるステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、地域課題の解決に取り組んでいます。中でも今中期経営計画では防災事業を注力事業として挙げていることから、産官民による「顔の見える関係づくり」が、災害に強い社会の創成に欠かせないものと考え、2015年度には文京区防災課、文京区社会福祉協議会、民生委員代表の皆様とのダイアログを実施、続く2016年度は当社潮崎社長と文京区成澤区長との対談を実施しました。

当社は2014年に文京区が開催した「防災フェスタ」に、止水製品をはじめとした防災関連商品を展示したことをきっかけに、文京区と「災害時における相互協力に関する協定」



文京区防災フェスタ

を締結しており、発災時には社屋の一部を開放し、帰宅困難者の受け入れを行う等、地域防災・発災時対応等に貢献する一方、自治体や企業のBCPといった自助を支援する防災関連ソリューションの拡充を進めています。



文京区成澤区長と潮崎社長の対談の様子

グループの発展を担う事業を、注力事業として展開していきます。エコ・防災事業は継続して注力すべき事業と捉えています。さらに海外事業では、当社の生産拠点であるベトナムを中核に、ASEAN（東南アジア）を中心に販路を拡大し、事業の強化を図ります。

2016年度からスタートさせた中期経営計画においても、グループ一丸となって取り組み、「進化する快適環境ソリューショングループ」としてさらに成長し続けます。

設計・工務革新プロジェクト

「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現には、設計力、施工力の強化は必須です。次世代リーダーが中心となり、多様化する現場状況に柔軟に対応できるネットワークづくりや、お客様のご要望にお応えする設計・製造・工務に至る一気通貫の最適化をめざし、「設計・工務革新プロジェクト」を発足させました。1年間におよぶ研修プログラムでは、知識、技術の平準化に向けた研修や、各エリアでの現状について情報共有を行い、提起された課題ごとの具体的な施策を発表しました。



研修の様子



「2016年度グッドデザイン賞」授賞式にて

VOICE

設計と工務の問題点やあるべき姿について、意見交換しながら新しい構想を提案するという、貴重な経験となりました。テーマを生み出す大変さと、表現する難しさも同時に学ぶことができました。全国から集まったメンバーと同じ目的のもと、約一年間活動した経験は大きな財産であり、今後の業務に活かしていきたいと思っています。



文化シャッター
東日本施工統括部
設計一課
梅澤 拓也

つ製品とサービスを提供してきた総合建材メーカーとして、今後両社との協業によって事業領域を拡大するとともに、より幅広い総合提案を行うことでさらなるお客様の信頼を獲得し、グループの成長と発展をめざします。

パートナー戦略体制の構築

文化シャッターは、2015年にベトナムにおける樹脂サッシ、アルミサッシのトップメーカー Eurowindow Joint Stock Company（以下Eurowindow社）と資本提携しました。すでに協業関係にある不二サッシと3社の連携で、技術および商品開発をはじめ、ベトナムでの現地使用商品の拡充や、新規事業商品の共同開発を推進しています。また、Eurowindow社の保有する営業拠点と連携し、シャッター、サッシ、ガラス製品等による総合提案を展開しています。アジア市場への本格参入として、両社とのパートナー戦略体制の構築によるシナジー効果に期待しています。



Eurowindow社

BXカネシン・BX TOSHOをグループ会社化



BXカネシン外観

BXグループは、建築金物製造販売会社の株式会社カネシンと、木造構造計算の東昭エンジニアリング株式会社を保有する株式会社ワイエスホールディングスと株式譲渡契約を締結し、BXカネシン、BX TOSHOとして新たにグループ会社に迎え、グループ全21社となりました。生活者視点で開発した製品と、お客様との持続的な信頼関係づくりには欠かせないアフターサービス体制により、お客様のさまざまな暮らしに役立つ

TOPICS 2016年度の主な受賞

第10回キッズデザイン賞

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会

電動窓シャッター用 「ワイヤレスタイマースイッチ」



電動窓シャッターの開閉をタイマーで制御し、日の出・日の入りに合わせることも可能です。人が本来持つ、自然の目覚めと休息や睡眠を促し、子どもたちの健やかな成長に役立つ製品となっています。

2016年度グッドデザイン賞

公益財団法人日本デザイン振興会

BX止水板「ラクセット」



第27回読者が選ぶネーミング大賞 「ブランドネーミング賞」

株式会社日刊工業新聞社

新型高速シートシャッター「大間迅」



誠実な企業経営

コンプライアンスの徹底

BXグループでは、全従業員を対象とした各種e-ラーニングの実施や、社内のポータルサイト上で短時間に学べる「こんぶらだより」の定期配信等を通じたコンプライアンス教育を実施しています。従業員には常時携帯できるコンパクトサイズの「CSR憲章」を配付し、一人ひとりに良き企業市民としての行動を徹底しているほか、各エリアにおけるコンプライアンス集合研修の実施や、定期的な勉強会を報告する制度を

設けるなど、さまざまな機会によりコンプライアンス意識の向上を図る取り組みを展開しています。また、2017年度からは、コンプライアンス監査制度の導入に向け、全社的な意識調査や各エリアの実態調査を開始し、さまざまな事例検討により、さらに実質的なコンプライアンスの徹底に取り組みます。



コンプライアンス研修の様子

新任所課長研修資料

社会と共に

BXグループでは、創業以来、事業活動を通じての社会との関わりを大切にしてきました。“私たちができる社会貢献”を念頭に、地域社会にとって最適な活動に取り組み、良き企業市民として積極的に関わっていきます。



富士山清掃活動での集合写真

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○ 目標達成 △ 要改善)	2017年度目標
被災地の子どもたちを笑顔にする支援活動の実施	●「第2回BXマルシェ東北うまいものフェア」を開催 ●「第6回Happy Disc Cup巨理町ドッチビー大会」に協賛 ○	2016年度と同様の目標を引き続き継続
当社グループ拠点所在地の自治体との協働を通じた災害発生時における周辺住民の安全体制構築への取り組み	●「平成28年熊本地震」被災地への支援活動 ○ ●小山市と災害協定を締結 ○ ●「文京区防災フェスタ」に出展 ○	●全体の活動…より積極的に全国展開する ●被災地での活動…より充実した活動を継続的に取り組む
職場体験、就労体験、職場見学等への自社施設等の開放ならびに、次世代育成への積極的な取り組み	●各エリアにおいて小・中学校、高校の職業体験を受け入れ ○ ●東洋大学生の「社会貢献フィールド活動」を受け入れ ○	

企業市民としての社会貢献

第2回BXマルシェ東北うまいものフェアを開催

東日本大震災発生から、6年が経過した今、変化する被災地のニーズに合った支援を目的に、東北物産展「第2回BXマルシェ東北うまいものフェア」を、BXホールにて開催しました。これにより被災地の産業復興につながるほか、地域の皆様を含む多くの方が、現地に赴くことなく支援活動に参加でき、現在もなお、復興に向けて奮闘する被災者の想いを「知る」機会としても意義のある活動です。当日は東洋大学のゼミ生も「社会貢献フィールド活動」として参加



会場の様子

し、マルシェの盛り上がりに一役買ってくれました。第1回に引き続き、従業員をはじめ、多くの地域住民や近隣にお勤めの皆様ご来場になり、出店した被災地の方々にもご好評をいただきました。

from STAKEHOLDER

大学の講義では決して学ぶことのできない、CSRの現場を肌で感じることができました。「人とのつながり」を大切にする企業姿勢に感銘を受け、この経験が、「地域に密着した社会貢献活動に携わりたい」と将来の職業選択を見据えるきっかけとなりました。このような社会体験は、私たち学生にとって、企業と社会の関わりを目の当たりにできる非常に貴重なものです。今後もぜひ、私たちの後輩が継続して参加させていただけたらと思います。



「社会貢献フィールド活動」で参加した東洋大学生



東洋大学 社会学部 社会福祉学科 3年生
田中 恵嘉 様

第4回BXグループ富士山清掃活動

BXグループでは、アルピニストの野口健氏の活動に賛同し、協賛しています。第4回となる富士山清掃活動では、野口健氏、NPO法人「富士山クラブ」の協力のもと、BXグループ従業員とその家族、総勢203名が参加しました。トラック2台分の廃棄物を回収した後、野口健氏による環境教室が開かれ、参加者には環境問題について改めて考える機会となりました。今後も、このような環境保全活動を通じ、従業員の意識と一体感を高め、社会の課題に取り組む活動を推進していきます。



活動の様子

野口健氏を囲んで

VOICE

今回で2回目の参加となります。私の仕事はリフォーム工事なので、家屋解体やリフォームの廃材が不法投棄されているのを初めて見た時には衝撃を受けました。参加のきっかけは野口健さんにお会いすることでしたが、あまりの廃棄物の多さに気づけば必死にゴミを集めていました。富士山麓の清掃活動を20年近くも続けている富士山クラブには敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。富士山に限らず日本には守るべき自然が多く、美しい日本を後世に伝える活動に、参加できたことを嬉しく思っています。



BXゆとりフォーム 武蔵野店
越 忍

人道的社会貢献

「平成28年熊本地震」被災地への支援活動

2016年4月に発生した熊本地震において、文化シャッターでは義援金と共に避難所でのプライバシーを確保するための間仕切400名分を寄贈しました。また当社福岡工場を拠点とした飲料水や簡易トイレ等の物資による支援のほか、破損や開閉困難となったシャッター等への取り扱い注意喚起など迅速な応急体制で対応しました。BXグループでは「エコと防災」をテーマに事業活動を行っていますが、同時に発災時についても全国拠点にある資源を活かし、迅速な対応で支援活動を実施します。

VOICE

「平成28年熊本地震」から、1年が過ぎました。多くの方からの温かいお言葉、そして早急な支援物資の手配に心から感謝しています。震災直後のあらゆる道路・ライフライン等が寸断された混乱の中、地域に何かできることはないかと思っていたところに、営業所近くの避難所となっていた小学校で、支援物資が届かず困っているという話を聞きました。微力ではありますが、少しでもお役に立てればとの思いで、できる限りの物資を届けさせていただきました。発災時には情報が分断される傾向にあります。普段から地域の皆様と顔の見える関係を築き、いざという時には迅速に連携できることの大切さを知りました。



文化シャッター 九州支店 熊本営業所
坂口 浩司



震災直後の事務所の様子

避難所用間仕切

文化活動の支援

文化活動を通じた地域社会への貢献

BXグループでは、音楽や伝統芸能などさまざまな文化活動を支援しており、また本社に併設されたBXホールを開放し、文化活動を通じた地域社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。中でも定期的に開催している障がいのある方を招待してのチャリティコンサートでは、パイオニア株式会社様の「体感音響システム」を使用し、耳の不自由な方にも一緒に音楽を楽しんでいただいております。今後も他企業、他団体様との協働や当社の保有する資源を最大限に活かした活動を通じて、地域の皆様の文化活動の促進に貢献していきます。

WEB パイオニア株式会社 身体で聴こう音楽会
<http://pioneer.jp/corp/society/contribution/music/karadadekikou/about/>



目録の贈呈

アコーディオンとバイオリンのデュオ「TENGO」

from STAKEHOLDER

約5年前からBXホールでのチャリティコンサートにご招待いただいております。今では恒例の行事となっており、毎回多くの会員がコンサートを楽しみにしています。特にアコーディオンとヴァイオリンのデュオ「TENGO」のお二人にはファンが多く、元氣と勇気をもらっています。コンサート後には会員からの直筆のメッセージを送り、また返信をいただくなどの交流も生まれています。



文京区心身障害福祉団体連合会 会長
住友 孝子 様

BXグループのエリア活動

●文化シャッターサービス 障がい者施設の合同体育祭を支援

文化シャッターサービスでは、障がい者支援活動をCSR推進テーマに定め、昨年に引き続き千葉県内の障がい者施設による合同体育祭「ウルトラ大運動会」に、千葉サービス支店のメンバーがボランティアスタッフとして参加しました。前日の会場設営をはじめ、会費の集計、運営補助やキャラクターの着ぐるみで会場を盛り上げるなど、300名以上が参加するこの大会には、ボランティアスタッフの協力が不可欠となっています。また、全国各地の社会福祉法人よりノベルティを購入し、お客様にお渡しする活動も行って、最近では「ぜひ当社でも取り組みたい」と活動に賛同する他企業も増えてきていると聞いています。

今後もこのような活動を全従業員が一体となって継続することで、障がい者が活躍する社会の形成に貢献したいと考えています。



第24回ウルトラ大運動会



ボランティアスタッフの活躍

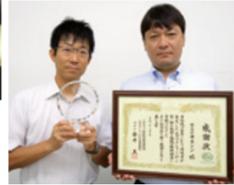
●BXカネシン 「エコアクション21」10年継続により表彰

BXカネシンでは、環境保全への取り組みを効果的・効率的に行うことができる環境マネジメントシステムの構築、運用をはじめ、製品開発における省資源型製品の創出および販売拡大、CO₂、廃棄物排出量の削減などの活動を継続して実施しています。この度エコアクション21認証登録業者として、10年間継続の功績を認められ、事務局から表彰を受けました。また、当社が実施している顧客満足度調査においては、多くのお客様から当社のこのような取り組み姿勢を評価する声をいただいています。

今後もこの活動を継続し、環境保全への貢献という視点を忘れずに従業員一丸となって取り組んでいきます。



授賞式の様子



●BX文化工芸 地域の小学生がものづくりを体験

BX文化工芸では、当社前の通学路を利用する児童からの提案で、埼玉県川口市立芝中央小学校に通う3年生を職業体験として受け入れ、ものづくりを体験してもらいました。テーマは「発見・体験・まちの名人」。完成した時の感動やものづくりの素晴らしさを感じてもらおうと、安全面には十分に配慮しながら工程ごとの作業に取り組んでもらいました。児童たちは各担当者からの説明を熱心に聞き、時には積極的に質問をするなど、熱心に取り組んでくれました。自分たちが製作に携わった「オープン棚」を持ち帰る時の笑顔は忘れられません。子どもたちがものづくりに興味を持ち、未来を担うことを願って、今後も継続して職業体験の受け入れを実施していきたいと思ひます。



熱心に聞き入る児童

BXグループでは、全国にある各事業所が主体となってCSR活動を推進しています。災害被災地での復興支援活動や、地元中学生・高校生を対象とした就業体験の受け入れ、チャリティーイベントへの協力など、従業員一人ひとりが、「地域のために」の思いを持って、各地域に根差した活動に自主的に取り組んでいます。



とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業 「梅のへた取り」参加者集合写真



はっさくの収穫



そばの収穫

●BX朝日建材

とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業

BX朝日建材では、徳島県が主催する「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」に協働パートナーとして参加しています。地域創成に意欲的な団体「ふるさと団体」と、地域に貢献したい企業等の「協働パートナー」が、はっさくやそばの収穫作業等の農作業支援を通じて、共に地域の活性化を図ります。参加当初は少数だった参加者も年々増加の傾向にあり「年代の違う方々と一緒に活動する事でコミュニケーション力に自信がついた」など、自身の行動変容にもつながっているようです。県の担当者からは、当社の熱心な取り組み姿勢に感謝の言葉をいただいております。企業市民として地域に貢献できると同時に、個人の成長も感じられる活動となっています。

●文化シャッター 小山工場 小山市と災害協定を締結

小山工場では、2015年に発生した「関東・東北豪雨」に代表される大規模災害に備え、栃木県小山市と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結しました。この協定は、発災時において、人員を含めた工場の所有する資源を提供し、駐車場等の敷地を避難所として活用するなどの支援内容が含まれます。この締結をきっかけに、さらに地域防災への意識向上を図り、行政や市内他企業との連携を深め、地域に貢献していきます。



小山市大久保市長との調印式

●文化シャッター 姫路工場・御着工場

障がい者支援団体のパンを工場販売

姫路工場および御着工場では、姫路市内の「NPO法人みんなのいえ」の活動を支援し、施設に併設するパン工場のパンを月に一度工場内で販売しています。障がいを抱える方が焼いたパンを工場内で購入することで、従業員が気軽に貢献活動に参画でき、「みんなのいえ」からも「パンを販売した売上金によって、福祉サービス事業をさらに成長させていくことができる」といった喜びの声が届いています。今後もこのように積極的に参画できる貢献活動を継続していきます。



御着工場でのパン販売

●BXホール 「平成28年熊本地震」支援活動「うつくしいひと」上映会

文化シャッター本社ビルのBXホールでは、2016年6月に「平成28年熊本地震」の被災地復興を願い、行定勲監督による熊本復興支援映画「うつくしいひと」上映会を開催しました。上映後には行定監督と出演者によるトークショーが行われ、震災前の熊本の風景を記録した映像の解説や、復興支援のあり方について、熊本県出身のお二人の思いが交わされました。BXホールは「文化の発信基地」として、会議や講演会をはじめ、展示会や音楽プログラムにも対応した設備を兼ね備えており、地域の文化活動のほか、多岐にわたりご利用いただいております。また災害時には帰宅困難者を受け入れる協定を締結するなど、地域防災にも貢献しています。今後も所有する資源を活かした貢献活動を継続して実施します。



行定勲監督と出演者によるトークショー
右) 義援金の贈呈

地球と共に

BXグループでは地球規模で深刻化する環境問題に対し、CSR憲章「地球と共に」に基づき、事業活動とお客様に提供する商品やサービスを通じた環境保全に取り組んでいます。2016年度は、「エネルギーの見える化」により事業活動における省エネ活動を推進するとともに、サプライヤーの皆様と連携し環境保全の取り組みを進めました。



100%リサイクル素材 木材・プラスチック再生複合材エクステリア「テクモク」

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○ 目標達成 △ 要改善)	2017年度目標
電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減(2015年度比1%削減)	●工場における「消費エネルギーの見える化計画」を開始 ○	電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減(2016年度比1%削減)
ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開	●文化シャッターの7工場、グループ会社の3工場でゼロエミッションを達成維持 ○	ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開
サプライチェーン全体での環境負荷低減の推進	●調達ガイドラインの見直し △	サプライチェーン全体での環境負荷低減の促進
「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発	●「HEMS」対応製品の拡充 ○	「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発
自主的な環境保全活動の推進と支援	●「こどもエコクラブ全国フェスティバル2017」への参画 ○	自主的な環境保全活動の推進と支援

環境負荷を軽減した企業経営

グループ全体で環境負荷低減活動を推進

BXグループでは、エコアクション21を基盤とした環境経営システム(EMS)を構築すると共に、環境法の遵守を徹底し、グループ全体で環境負荷の低減に取り組んでいます。文化シャッター小山工場、BX新生精機、BXテンパル埼玉工場では、環境マネジメントの国際規格ISO14001認証を取得しています。

省エネルギー対策では、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサー等の省エネ機器導入、ガスヒートポンプエアコンへの切り替え、電力デマンドの管理による適正なエネルギー使用の平準化、太陽光発電システムの導入、およびエコドライブの推進等に取り組んでいます。2016年度は電気使用原単位を0.1%の削減となりましたが、ガソリン使用原単位は4.4%(2015年度比)の増加となり一層の努力が必

要となりました。

廃棄物については、グループ全体での分別、リサイクルを推進し、総排出量を48.2%(2015年度比)削減しました。また、生産活動で使用する化学物質も適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。

工場における「消費エネルギーの見える化計画」を開始

文化シャッターでは、省エネルギー法で定める「特定事業者」に指定されており、エネルギー使用の合理化および電気の需要の平準化を推進しています。各工場では、省エネ効果の高い生産設備や照明設備の導入等によるエネルギー原単位の削減に取り組んでいます。

この度、秋田工場をモデル工場として、エネルギーロスの要因を自ら見つけ改善できる仕組みを構築し、中長期的な

省エネ設備を体系的に導入する「消費エネルギーの見える化計画」を開始しました。この取り組みで蓄積したノウハウを他工場に展開し、全工場におけるエネルギーロスを最小限に抑えるシステムを構築することで、地球環境保全における企業の責任を果たしていきます。

VOICE

「消費エネルギーの見える化計画」のシステムを導入したことで、工場建屋や設備ごとの消費エネルギーが把握できるようになりました。これにより、対策を講じた際の成果がデータによって確認できるようになり、より一層の省エネ意識向上につながります。今後エネルギーロス要因を自ら見つけ、計画的かつ継続的に改善できる仕組みを工場と本社部門が一体となって構築し、文化シャッター各工場およびグループ各社への展開も視野に入れた消費エネルギーの削減に努めていきます。



文化シャッター製造企画部
栗瀬 佑輔

BXグループにおけるゼロエミッションへの取り組み

BXグループでは、文化シャッター7工場(千歳、秋田、小山、掛川、姫路、御着、福岡)全てにおいてゼロエミッションを達成し、継続しています。またグループ会社においても、BXティアール埼玉工場、BX新生精機、およびBX鐵矢の工場においてゼロエミッションを達成しています。今後も引き続きグループ全体に活動を展開し、ゼロエミッションの継続と達成にむけた取り組みを推進していきます。

VOICE

BX文化パネル播磨工場ではゼロエミッション達成に向けての挑戦がスタートしました。準備期間を設け、文化シャッターの製造企画部、御着工場、さらにグループ会社においてすでにゼロエミッションを達成しているBX新生精機の各担当者からアドバイスをもらいながら環境を整えましたが、いざスタートしてみると分類目の理解が統一されておらず、ゴミの混が見られるなど、一人でも意識が欠落すると絶対に達成できない取り組みだと実感させられました。ゼロエミッション達成への強い意志を持ち、従業員全員が正しく分類できるよう理解を共有することで達成目標に近づいています。ゼロエミッション達成後も継続し取り組んでいきます。



BX文化パネル播磨工場



BX文化パネル播磨工場 工場長
寺坂 彰能

環境配慮技術・商品開発

HEMS対応商品の拡充

文化シャッターでは、電気やガスの使用状況をモニター画面などで「見える化」したり、家電機器を自動制御することで、家庭で使用するエネルギーを省力化する管理システム「HEMS」と連携した窓シャッターを2015年に発売しました。「HEMS」の標準通信規格であるECHONET Lite[®]に準拠した窓シャッターは当時としては業界初であり、さらにスマートフォンとの連動で外出先からも開閉操作が可能のため、急な天候の変化に対応できると同時に、防犯面もサポートします。2016年度より外付ブラインドとの連携も開始され、室内に入り込む日射しをコントロールでき、また室内の冷暖房効率の向上にも効果があります。現在4社の「HEMS」との連携が可能、今後もますます拡充させていく予定です。

このように文化シャッターでは、お客様が快適に安心して暮らせる環境づくりに、「便利」と「省エネ」という新たな価値を提案する商品の拡充を進めています。今後も快適さや利便性を追求しながら、環境に配慮した製品の開発を通じて、地球環境の保全に貢献していきます。

※ ECHONET Lite : 家電機器、スマートメーター、太陽光発電システムなどを含む約80種類以上の機器と通信できるHEMS構築のための通信規格。ISO規格、IEC規格として国際標準化されています。





「こどもエコクラブ全国フェスティバル」集合写真

自主的な環境保全活動

こどもエコクラブ全国フェスティバル2017への参画

文化シャッターは公益財団法人日本環境協会が主催する「こどもエコクラブ」に賛同し、パートナー企業として活動を支援しています。全国の子どもたちが自主的に環境問題に取り組み、一年間の成果を発表する「こどもエコクラブ全国フェスティバル」には継続して参加しており、文化シャッターが推進する環境負荷低減活動を、実際に目で見て、手で触り、体感できるブースを出展しています。2016年度のテーマは「輝け☆全国のアースレンジャー」。当日は最多の619名もの子どもたちが全国から参加しました。それぞれの活動を壁新聞で発表し、子どもたちの取材によって選出されたチームを称える表彰式が行われました。当社のブースにも多くの子どもたちが集まり、積極的に質問をするなど地球環境保全に取り組む企業の動きについて、知っていただく良い機会となりました。未来を担う子どもたちが、環境問題を身近に感じ、自主的に取り組むことのできる「こどもエコクラブ」の活動を今後も支援していきます。



VOICE

「こどもエコクラブ全国フェスティバル」のブース出展を通じて、子どもたちと触れ合うことが毎回の楽しみとなっています。環境問題に関心のある子どもたちからの質問には、時々うなってしまうような鋭い難問もあり、勉強させられると同時に、喫緊の問題である地球環境保全をこんなにも真剣に考えている子どもたちの存在を頼もしく感じています。



「こどもエコクラブ」のイメージキャラクター「エコまる」



文化シャッター
ドア・パーティション
事業本部
福祉住環境部 係長
松田 充司

化学物質の適正な管理

生産活動で使用する化学物質についても適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。

化学物質 大気への放出量・移動量 (t)

	大気への放出量	前年比	移動量	前年比
エチルベンゼン	28.4	↓	2.6	→
キシレン	61.2	↓	6.3	↓
トリメチルベンゼン	0.0	→	0.0	→
トルエン	31.0	↓	9.9	↓
鉛その他化合物	3.5	↑	6.2	↓
その他	0.8	↓	0.0	↓
合計	124.9	↓	25.0	↓

BXグループ環境負荷の全体像

BXグループ・環境方針

環境理念 人・社会・環境にやさしい商品づくりに積極的に取り組み、「快適環境のソリューショングループ」として健全で豊かな社会の実現に貢献します。

- 行動指針**
- 省エネやリサイクル活動を積極的に推進します。
 - 環境関連法規制及びその他関連事項を遵守し、環境汚染の予防と継続的な改善に努めます。
 - 環境保護・改善に寄与する製商品の開発・設計、及び資材の購入に努めます。
 - 製造～販売～物流～施工及びアフターサービスの各段階でもたらされる環境負荷の低減に努めます。
 - 社員一人ひとりが環境への意識向上を図るとともに、企業市民として環境保護活動を推進します。

2016年度の事業活動による環境負荷の全体像

2015年度比 ↑ 増加 → 同等 ↓ 削減

INPUT

開発	環境配慮設計指針/ LCA設計
エネルギー	電力 6,357.0kWh ↑
	灯油 45.8kL ↓
	都市ガス 110,949.0m³ ↑
	LNG 0.0t ↓
	LPG 7.0t ↓
	ガソリン 4,116.5kL ↑
	軽油 621.7kL ↑
水資源	上水 54,690.4m³ ↑
	地下水 5,534m³ ↑

製造	製造活動における エネルギー・資源の使用
エネルギー	電力 13,624.0kWh ↑
	灯油 61.0kL ↓
	都市ガス 225,683.3m³ ↑
	LPG 410.5t ↑
	ガソリン 142.7t ↑
	軽油 62.7kL ↓
水資源	上水 28,971m³ ↑
	地下水 56,731m³ →

物流	物流における エネルギーの使用
エネルギー	電力 13,624.0kWh ↑
	灯油 61.0kL ↓
	都市ガス 225,683.3m³ ↑
	LPG 410.5t ↑
	ガソリン 142.7t ↑
	軽油 62.7kL ↓
水資源	上水 28,971m³ ↑
	地下水 56,731m³ →

施工	施工における エネルギーの使用
エネルギー	電力 13,624.0kWh ↑
	灯油 61.0kL ↓
	都市ガス 225,683.3m³ ↑
	LPG 410.5t ↑
	ガソリン 142.7t ↑
	軽油 62.7kL ↓
水資源	上水 28,971m³ ↑
	地下水 56,731m³ →

使用	商品使用段階における 環境負荷の低減
エネルギー	電力 13,624.0kWh ↑
	灯油 61.0kL ↓
	都市ガス 225,683.3m³ ↑
	LPG 410.5t ↑
	ガソリン 142.7t ↑
	軽油 62.7kL ↓
水資源	上水 28,971m³ ↑
	地下水 56,731m³ →

廃棄	廃棄段階における 環境負荷の低減
エネルギー	電力 13,624.0kWh ↑
	灯油 61.0kL ↓
	都市ガス 225,683.3m³ ↑
	LPG 410.5t ↑
	ガソリン 142.7t ↑
	軽油 62.7kL ↓
水資源	上水 28,971m³ ↑
	地下水 56,731m³ →

OUTPUT

大気への放出	CO ₂ 排出量	14,561t-CO ₂	↑
水域への放出	水	52,316m ³	↑



大気への放出	CO ₂ 排出量	9,743t-CO ₂	↓
	PRTR対象物質	149.9t	↑
水域への放出	水	56,731m ³	↓



廃棄物	埋立・焼却量	107t	↓
	リサイクル量	7,904t	↓



廃棄物	埋立・焼却量	3,132t	↑
	リサイクル量	1,840t	↓



働く仲間と共に

「自ら手を挙げチャレンジする」という組織風土を醸成させるためのさまざまな取り組みを実施しています。中でも「新しい働き方実現プロジェクト」では、従業員自らが職場環境や働き方について協議を積み重ね、サテライトオフィスの設置や会議の効率化等の取り組みが始まり、全社に展開していく予定です。2017年度はBXグループ全社で「働き方の改革」を推進し、多様な人材がさらに活躍できる職場づくりを進めていきます。



「チーム・イノベーション・キャンプ」研修

活動ハイライト		
2016年度目標	実績 (○ 目標達成 △ 要改善)	2017年度目標
生産性を向上させる取り組みで、ワークライフバランスの実現を図る	●従業員自らが考える「新しい働き方実現プロジェクト」 ●多様な働き方を支援 ○	「働き方の革新」の推進
従業員の健康を保つために、メンタルヘルスケアに取り組む	●ストレスチェック制度の導入 ○	メンタルヘルスケアの推進
従業員同士が活発なコミュニケーションを図ることが出来る環境や制度を整備する	●全ての人が活躍できる職場づくりを推進 ○	多様な人材が活躍できる職場環境の整備
自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透を図る	●豊かな発想を育成するためのさまざまな人事制度の拡充 ●「チーム・イノベーション・キャンプ」を全国5ヶ所で開催 ○	自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透

TOPICS 人事関連データ (集計範囲:文化シャッター)

※文化シャッター「単体」で算出

項目	2014年度	2015年度	2016年度	
新卒新入社員人数(名)	42	47	42	
新卒新入社員3年間の定着率(%)	94.25	92.37	92.36	
離職率(%)	1.38	1.35	1.98	
平均年齢(歳)	男性	43.2	42.8	43.7
	女性	40.0	39.6	40.9
	全体	42.9	42.5	43.4
平均勤続年数(年)	男性	17.6	16.8	17.3
	女性	16.3	15.3	16.6
	全体	17.5	16.7	17.3
女性管理職(名)	0	0	0	
育児休業取得者(名)	12	18	17	
短時間勤務利用者(名)	5	10	14	
介護休暇取得者(名)	0	0	0	
障がい者雇用率(%)	2.14	2.00	2.03	
定年後再雇用実績(名)	28	34	32	

人権の尊重

従業員自らが考える「新しい働き方実現プロジェクト」



会議の様子

文化シャッターでは、従業員一人ひとりが自らの業務を見直し、改善・改革に積極的に取り組むことで生産性や効率性を向上させ、労働時間の短縮によるワークライフバランスの実現をめざして「働き方の改革」を推進しています。また、従業員の効率性や快適性を追求した職場環境づくりの観点から「新しい働き方実現プロジェクト」を発足させ、ワークスタイルを多様化させるための提案や検討を重ね、サテライトオフィスの設置など「BXワークスタイル」として、グループ各事業所への水平展開を念頭に置いた具体的な取り組みを開始しました。

多様な働き方を支援

文化シャッターでは、育児や介護をしながら仕事と家庭を両立が図れるよう、多様な働き方への支援に取り組んで

文化シャッターでは、従業員一人ひとりが自らの業務を見直し、改善・改革に積極的に取り組むことで生産性や効率性を向上させ、労働時間の短縮によるワークライフ

います。育児休業制度では、短時間勤務の対象を小学3年生に達するまでに拡大するなど制度の充実を図っています。

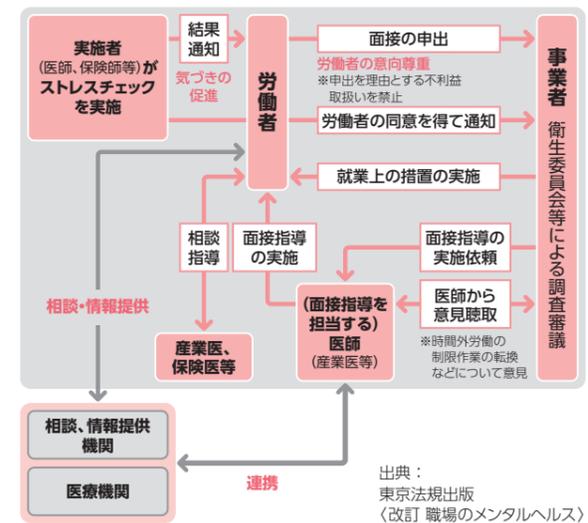
また家族の介護や特定疾患に罹病した場合には、積み立てた休暇の中から、有給休暇として取得することができる休暇積立制度のほか、法令に則り要介護状態にある家族を看護する従業員については所定時間外の労働を免除するなど、支援制度の整備を進めています。

ストレスチェック制度の導入

文化シャッターでは、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止するために、ストレスチェック制度を導入しました。11月に実施したストレスチェックでは、正社員、嘱託、契約社員、パートタイマーを含む1,982名(77.9%)の従業員が受講、産業医による結果に応じた面接の実施や、助言に基づいた環境改善に取り組んでいます。

また、健康相談日の設置や、衛生委員会の定期開催など、従業員がさまざまな不安を解消し、心身共に健康に働くことのできる環境を整えています。

ストレスチェック制度の仕組み



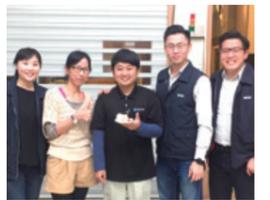
満足度の向上

豊かな発想を育成するためのさまざまな人事制度の拡充

文化シャッターでは、従業員のモチベーション向上と豊かな発想を育成するために、さまざまな人事制度・教育研修の拡充に取り組んでいます。海外派遣制度、グループ内インターンシップ制度、ジョブ公募制度などさまざまな職場経験の機会を創出することにより、従業員が新しいことに挑戦し、目標に向かう意欲を維持することで、BXグループ全体の成長をめざしています。制度の多くは従業員の提案がもとになっており、今後も制度を充実させ活用することで、自ら考え、自ら行動できる人材を育成してまいります。

VOICE

初の海外が長期生活になるという
ことで、当初は不安でいっぱい
でしたが、この貴重な機会を無駄に
すまいと、積極的にコミュニケーション
を図ろうと努力を続けたこと
で、台湾人スタッフと共に毎日、
有意義な研修を送ることができま
した。長期間にわたり異文化に
触れ続けた経験を、これからの日本
での社会人生活の向上につなげ
ていきたいと思っています。



BX BUNKA TAIWAN
輸出貿易班のメンバーと

文化シャッター 中四国支店
施工管理センター岡山
清水 翔平 (写真中央)

「チーム・イノベーション・キャンプ」を全国5ヶ所で開催

BXグループでは、お客様に感動を与えるソリューションを提供することをめざし、組織の総合力を最大限に機能させることを目的とした「チーム・イノベーション・キャンプ」を全国5ヶ所で開催しました。

各リーダーが自己の行動特性を把握した上で自部門における使命・価値観を追求し、組織におけるイノベーション・プラン策定、実践に活かすことが目的の研修です。



チーム・イノベーション・キャンプ

その他多様なテーマの研修を通じて、従業員が自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透を図るとともに、BXグループ全体のシナジーをより一層発揮できる組織への改革を進めています。

VOICE

チームに「革新」を起こし、メンバーの力を最大限に発揮できる組織には何が
必要か、チームのあり方について身
をもって体験することができまし
た。従来の研修とは趣の違った、
ストーリー性のあるプログラムの
体験型研修で、今後のマネジメント
に大いに活かせる貴重な経験とな
りました。この経験をもとに、自
らの役割を十分に理解した個人
同士が、率直な意見を交わすこと
のできる組織づくりに励んでいます。



文化シャッターサービス
北海道サービス支店
札幌サービス課 課長
星 浩二

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

BXグループでは、株主や投資家の皆様をはじめとして、お客様、お取引先様、地域社会の皆様などのステークホルダーのご期待にお応えする事業活動を実現するため、継続的な経営の透明性向上の観点から、経営のチェック機能を充実させ、かつ公平性の維持を図るためのコーポレート・ガバナンス体制の整備、強化を推進しています。改正会社法やコーポレートガバナンス・コードによるグループガバナンス体制の強化が求められる中、当社グループは同コードに盛り込まれた原則を適切に実践することで、持続的な成長による企業価値のさらなる向上を図ってまいります。また、取締役会は会社法等の関係法令に基づき、内部統制システム構築の基本方針を制定し、継続的に内部統制体制の整備、強化を図っています。

監査等委員会による監査・内部監査の実施

文化シャッターでは、持続的な企業価値の向上を実現するため、従来からコーポレート・ガバナンスの強化に継続的に取り組んでいます。この度、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つこと等により、取締役会の監査・監督機能を一層強化し、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化と持続的な成長による企業価値の向上を目的に、従来の監査役会設置会社から、監査等委員会設置会社に移りました。当社の監査等委員会は、社外取締役4名を含む5名の監査等委員で構成されており、経営の透明性確保を目的として、

適法性、妥当性の面から取締役の職務執行状況の監査を行っています。監査等委員会による監査では、取締役会のほかに、社内の重要会議への出席や重要書類の閲覧、各部門およびグループ会社への往査などを行い、職務執行の全般を業務監査しています。内部監査としては、CSR統括部監査室や各事業本部に設置している業務担当が、事業本部、支店、工場、営業所などを対象に計画的な内部監査を実施しています。また、監査等委員会は代表取締役および業務執行取締役等と適宜、意見や情報の交換を行っています。内部監査部門および会計監査人と随時情報や意見を交換し合う三様監査により、監査が実効的に実施される体制を確保しています。

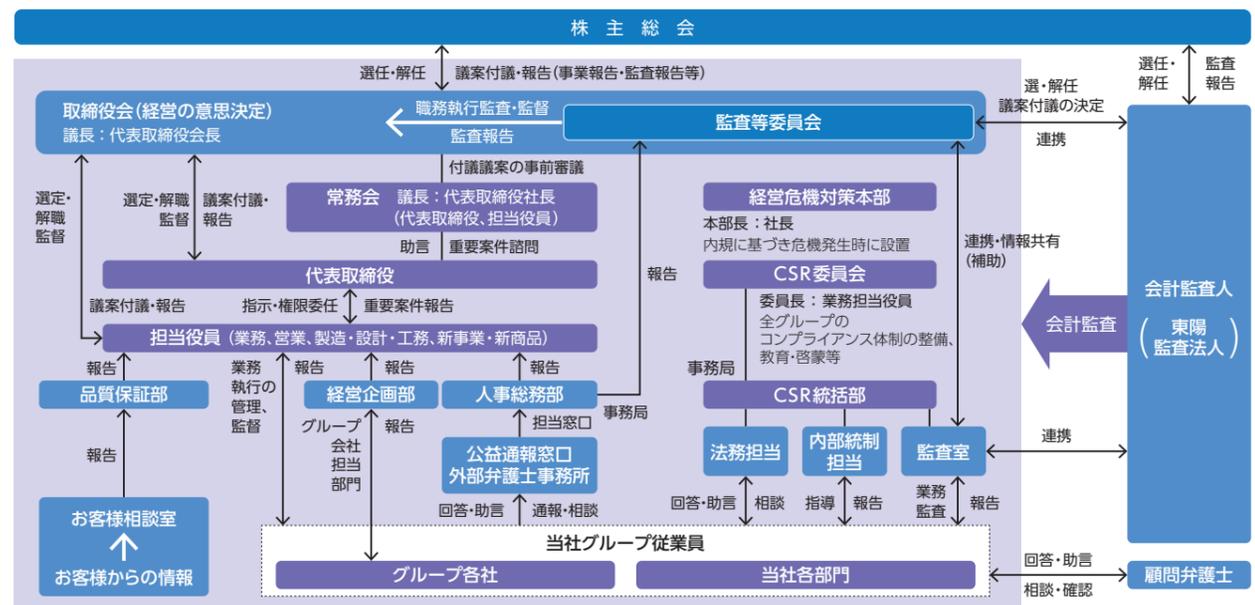
コンプライアンス

CSRガイドライン (CSR憲章)

BXグループでは、法令の遵守はもとより、社会規範や倫理に基づいた行動を一人ひとりが実践できるよう、遵守すべきルールを定めたCSRガイドラインを策定しており、e-ラーニング等を通じて周知徹底を図っています。またコンプライアンスに関する相談・連絡窓口として、「公益通報者保護規定」に基づき、社外に窓口を設置し、相談者が安心して利用できるよう、プライバシーを保護し、相談者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。

	2014年度	2015年度	2016年度
重大製品事故発生件数(件)	1	0	0
公益通報件数(件)	0	0	0

コーポレート・ガバナンス体制図 (監査等委員会設置会社移行後)



リスクマネジメント

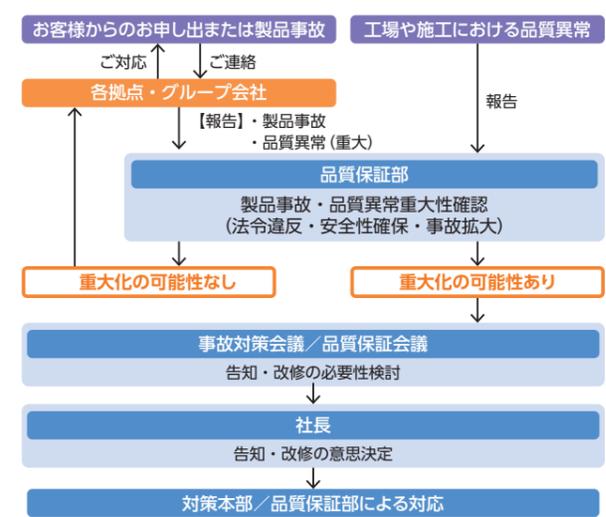
製品事故・品質異常の対応

BXグループでは、製品事故・品質異常に迅速かつ適切に対応するため、危機管理体制を構築しています。製品事故や重大な品質異常の情報は各拠点を通じて品質保証部に報告され、法令、安全性、事故拡大などの観点から重大化する可能性があるかと判断された場合には、各会議において審議を行います。会議では、法令遵守やお客様に「安心」「安全」にご使用いただけるかに主眼をおき、告知や改修の必要性を含め対応を検討し、社長との協議を経て告知や改修の最終決定を行います。製品事故、品質異常の情報から、迅速に原因究明を実施し、対策を講じることで再発防止を行います。また、水平展開を行うことで改良・改善に努めています。

WEB お客様サポート▶
シャッターをより安全にお使いいただくために
<http://www.bunka-s.co.jp/support/safety/>

	2014年度	2015年度	2016年度
重大製品事故発生件数(件)	1	0	0

危機管理体制 (製品事故・品質異常対応)



CSR調達についてのガイドライン

BXグループでは、サプライチェーンマネジメントにおいて、「グローバル」「公正・公平」「地球環境保全」の観点より、CSRへの取り組みに積極的なお取引先様から優先して調達するCSR調達を推進しています。

- 1. 社会規範の遵守**
サプライヤーの皆様に対して、各社のCSRへの考え方、取り組み方に対して共通の認識を持てるよう文栄会(文化シャッター協会の皆様)などの場で定期的な情報発信・指導を実施し、CSRに対する考え方・取り組み方が浸透するようにしています。
- 2. 購入品に関する品質の確保**
サプライヤーの品質管理状況を把握するために、定期的に監

査を実施することで調達する原材料や部品・製品の品質の向上と安定を図ります。今後も品質監査を実施・強化することで、さらなる品質の向上と安定を図ります。

3. 地球環境保全

サプライヤーに対して、ISO14000の取得状況やグリーン購入に関する実態調査を実施しています。今後もさらなる浸透を目指して現在の活動を維持・強化していきます。

製品の安定供給

BXグループでは、大規模災害が発生した場合を想定し、安定した製品供給を行うため、事業継続計画 (BCP/BCM) の策定とマネジメントに取り組むことで、お客様への製品の供給責任を果たしています。

〈通信の確保〉

- 被災状況を迅速かつ詳細に把握するため、各工場に衛生通信機器を設置し、本社を含めた拠点間の連絡体制を構築しています。

〈調達BCP〉

- サプライチェーンの二重化
原材料については、複数の供給拠点から速やかに代替品が調達できるネットワークを構築しています。
- 自社での最低在庫の確保
主要部品や部材については、東西デポを利用した在庫のバッファ機能により、安定的な供給体制を構築しています。
- 調達に関するガイドラインの整備
各サプライヤーに対し、CSR調達に関するガイドラインを浸透させ、さらなる安定供給の徹底を図ります。

〈製品の供給〉

- 製造システムの対応
工場が被災した場合は、他工場への生産情報転送により製品の代替生産を可能とするバックアップ体制を構築しています。
- 物流体制の構築
製品のデリバリーは、お取引先様や交通インフラの被災状況を迅速に把握し、最適なルートの検索や車輻等を確保する体制を構築しています。

情報セキュリティ

BXグループでは、情報資産のセキュリティを確保するため、「電子情報管理規定」「ハードウェア及びソフトウェア管理規定」を制定し、これに基づく管理体制のもと、積極的にセキュリティ保持活動に取り組んでいます。

2005年より全社PC端末に対する管理機能強化、PC本体およびUSBメモリ等外部媒体の暗号化による情報漏洩対策を行っており、さらにiPad等のモバイル機器についても、遠隔情報消去やパスワードの強化等の対策を行っています。また災害を想定した取り組みとして、全サーバーをデータセンターに集約し、バックアップを含め安全な環境を構築しています。なお、2016年度は情報セキュリティに関する重大な事故等の発生はありませんでした。

第三者意見



駿河台大学経済経営学部教授・博士(経営学)
水尾 順一様

(株)資生堂を経て1999年駿河台大学助教授、2000年教授、現在に至る。日本経営倫理学会副会長、(株)アデランス社外取締役、(株)西武ホールディングス企業倫理委員会社外委員、経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書「サステナブル・カンパニー：「ずっと」栄える会社の事業構想」(株)宣伝会議など多数

企業でCSRの実務を推進し、大学でその理論構築をして「CSRの理論と実践の融合」を社会に促進してきた立場から、BXグループの「CSR報告書2017」について以下に第三者意見を申し述べます。

●高く評価できる点

BXグループのCSR経営について、「伝統と革新」の視点からわかりやすく開示されています。

企業経営は、創業の精神を守りつつ新たな社会課題に挑戦をすることが重要で、常に「伝統と革新」の連続です。同グループは、創業以来の「伝統」である社是「誠実・努力・奉仕」を守りつつ、未来に向けた「革新」として「ポスト2020VISION：進化する快適ソリューショングループ」を2016年に決めました。その第一歩として、新中期経営計画(5ヶ年)を策定し、「BXグループの持続的成長」と「持続可能な社会の実現」の一体化をめざした取り組みをスタートさせています。

また、特集記事「新しい価値創造」への挑戦とBXグループの成長から同グループ60年の歴史と社会課題の解決に向けた取り組みを、さらに「震災に強い製品づくりで「安心」「安全」な社会の実現に貢献」では、ライフライン環境防災研究所の活動を通じた防災ソリューションの開発・拡充への取り組みが開示されています。

こうした「伝統と革新」の活動を通じて、社是・経営理念にある「お客様の幸せ」という創業者の思いが今日まで貫かれていることが示され、その意味からも秀逸な報告書であると言えます。

●今後の改善に期待する点

普遍的価値のCSRを大切にしながら、時代が求める社会課題への取り組みを期待します。

CSRは、コンプライアンスから始まり、社会貢献活動まで含めた幅広い概念で、いつの時代も大切な「普遍的価値」といわれています。当報告書では、ISO26000の7つの中核課題を踏まえつつ、CSR憲章と行動指針をもとに憲章で定める4テーマごとに年度目標の実践と評価が開示されており、普遍的な取り組みとすることができそうです。

一方、当報告書では、今の時代に求められるCSV(共益の創造)、ESG(環境、社会、企業統治)、人権・労働を重視する「働き方改革」についても触れられ、新しい取り組みが進んでいることが伺えます。

時代の要請に応じた重点課題への対応は、多様な価値のCSRを生み出し同社のイノベーションを促進する効果が期待できます。今後も普遍的な価値のCSRに加えて、重点課題としての新しいCSRへの取り組みにより、創業60周年から80周年、そして次の100周年に向けて持続可能な発展に結びつくことを心から祈念しています。

第三者意見をいただいて



文化シャッター
CSR統括部 執行役員部長
松山 成強

当社グループのCSR報告書につきまして、水尾先生には昨年に引き続き、貴重なご意見を頂戴し、深く感謝申し上げます。

この度のCSR報告書では、本業を通じた社会への貢献と企業成長の両立をテーマに、内容を構成しております。創業当初より社会課題に真摯に向き合ってきた当社グループの姿勢が、今日の成長・発展へとつながっていることは、ステークホルダーの皆様のご協力があるからこそ、真摯に受け止め感謝しております。水尾先生には、このような当社グループの企業文化という「伝統」と、中期経営計画に掲げる「革新」の関係を高くご評価いただきました。この事は大変嬉

しく、社是・経営理念に沿ったCSR経営を推進していく上で、大きな励みとなりました。

当社グループのCSRは、社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」を根幹として活動しており、4つの柱からなるこの憲章はグループ全従業員の活動指針となる、いわば羅針盤です。ご指摘いただきました通り、今後も「CSR憲章」を基軸にした取り組みは普遍的なものとして継続するとともに、時代の要請やステークホルダーの皆様からの期待に応じた重点課題を明確にし、グループ一丸となって取り組んでまいります。その努力こそが、社会の持続的発展とグループの成長・発展の両立の実現につながると信じております。

会社概要

コーポレートデータ

社名	文化シャッター株式会社	事業内容	各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売
本社	〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号	資本金	15,051百万円(2017年3月現在)
	TEL:03-5844-7200(代表) FAX:03-5844-7201	従業員数	4,012名(連結2017年3月現在)
設立	1955年(昭和30年)4月18日	営業所	全国231ヶ所(連結321ヶ所)

財務データ

BXグループでは、ステークホルダーの皆様への責任として、経営の透明性を高め健全な財務体質の強化を図るとともに、公正、適正に情報公開しています。

連結貸借対照表(B/S) 単位(百万円)

資産の部 合計 139,660		負債・純資産の部 合計 139,660	
現金及び預金 22,491	流動資産 81,542	支払手形及び買掛金 29,844	流動負債 46,975
受取手形及び売掛金 42,145		短期借入金 3,200	
商品及び製品 9,135		リース債務 470	
仕掛品 846		未払費用 5,011	
原材料及び貯蔵品 3,047		賞与引当金 3,094	
繰延税金資産 1,204		その他 5,354	
その他 2,760		固定負債 25,755	
貸倒引当金 △88	固定資産 58,118	長期借入金 5,550	純資産 66,929
有形固定資産 28,386	退職給付に係る負債 18,233	その他 1,972	
無形固定資産 5,676	株主資本 62,678		
投資その他の資産 24,055	その他の 包括利益累計額 4,250		

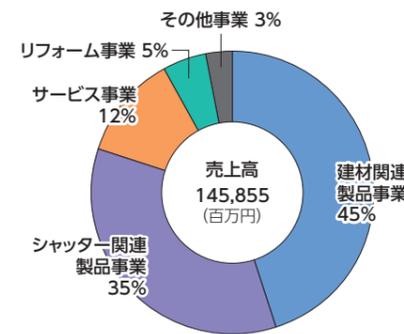
連結損益計算書(P/L) 単位(百万円)

売上高 145,855	売上原価 107,708	売上総利益 38,146	販売費及び一般管理費 30,866	営業利益 7,280	営業外収益 1,484	営業外費用 300	経常利益 8,463	特別利益 298	特別損失 27	法人税等 2,767	当期純利益 5,967
----------------	-----------------	-----------------	----------------------	---------------	----------------	--------------	---------------	-------------	------------	---------------	----------------

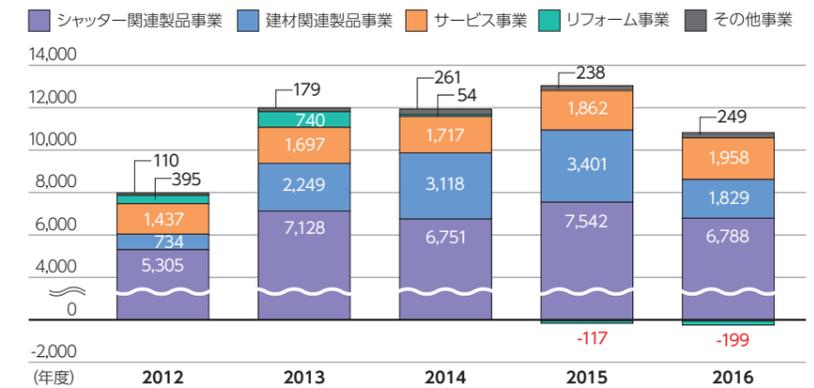
連結キャッシュフロー(C/F) 単位(百万円)

現金及び現金同等物の期首残高 20,522	営業活動によるキャッシュフロー 7,979	投資活動によるキャッシュフロー △9,435	財務活動によるキャッシュフロー 1,825	現金及び現金同等物に係る換算差額 △30	現金及び現金同等物の期末残高 20,860
--------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------

事業別売上高の構成比



事業別営業利益の推移 単位(百万円)



主要指標経年変化 単位(億円)





文化シヤッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号
<http://www.bunka-s.co.jp/>

お問い合わせ先

CSR統括部

TEL.03-5844-7330

FAX.03-5844-7331

